

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
佐々木 卓代			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会調査実習	MJGa-140806-0	14人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

質問紙調査票の項目を作成するにあたり、まず学生各自が先行研究の文献から概念の抽出を行い、分担して質問項目を作成して精査し再修正して調査票を完成させた。都内在住の共学大学学生に全員で調査と回収を行った。各自分担してデータの入力を行い、最終的に一つのデータにまとめた。最終従属変数を5つ設定し各班で最終的な分析モデルを作成してSPSSを使用して分析を行い、全員で報告書執筆の分担を決め取り組んだ。質問項目作成、実査を通してのチームワークや社会性の勉強等とても良い経験になったと考える。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

情報社会における大学生のICT利用と家族・友人・結婚等に対する認識

2. 調査の内容／概要：

大学生の属性（年齢・性別・きょうだい数・家族形態・出身地など）、生育歴（父母の労働形態・家事・育児分担・高校までの父母とのかかわり・現在の父母とのかかわり・きょうだいとのかかわりなど）、結婚希望の有無、ICT利用の現状やコミュニケーションの状況、友人に対する意識、性別役割意識など

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

首都圏の共学大学に在籍する未婚の大学生に対して、実習生が配布回収する形式で質問紙調査をおこなった。調査票回収数は635、回収した調査票は実習生が分担し、欠損値等の確認を行った。その結果、フェイスシートの回答が揃っている458名のデータを分析に使用した。

4. 主な調査項目：

学生と家族の属性（年齢、学歴、年収等）、インターネットの利用状況、ICT機器の種類や使用頻度・時間等、ITに対する認識、友人関係親密度、親子関係親密度、きょうだい関係親密度、大学生生活満足度、結婚願望、性別役割意識、メディアからの影響認識、親子関係満足度、両親の関係性等。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

首都圏に住む共学の共学大学在籍の未婚である学生を対象に、実習メンバーによって質問紙を配布回収する方法で調査を行った。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

調査時期は、2014年7～11月である。調査地は、主に東京所在地の大学の学生である。調査員はゼミ生全員の14名である。

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

調査票回収数は635票（回収率79.3%）、回収した調査票は実習生が分担し、欠損値等の確認を行った。その結果、フェイスシートの回答が揃っている458名のデータ（有効回答率72.1%）を分析に使用した。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

分析ソフトSPSS22.0バージョンを用いてパス解析を行った。「友人に対する認識」「家族関係親密度（両親・きょうだい）」「性別役割意識」「結婚に対する認識（結婚願望）」「親子関係満足度」を最終従属変数に設定し、影響要因の分析を行った。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

ICT利用時間が少なく新しいICTを利用するほど友人関係親密度が高く、両親とのかかわりや対面的コミュニケーションが多いほど両親への親密度や親子関係満足度が高く、両親の新密度が高いほど学生の結婚願望が高く、母親との関わりが多いほど伝統的な性別役割意識が高いことから、伝統的性別役割意識の再生産防止には女性の意識改革の必要性が示唆された。父親との平日会話が多いほどきょうだい関係親密度が高く、現在の父親との関係が母親との親子関係満足度に影響を与えていた結果から、父親の存在は家族全体に影響し、母親との関係性の要因であること、親子で共通の趣味を持つことと時間的余裕が親子関係に重要な要因であることが示唆された。

10. 報告書刊行の予定と概要：

社会調査実習報告書Vol.31 2015年3月刊行
報告書概要は、調査の背景と目的、先行研究、調査方法、5つの班に分けた分析結果と考察から成る。